



2018年 JET ふるさとビジョンプロジェクト

(一財)自治体国際化協会JETプログラム事業部

プロジェクトの誕生

これまでのJETプログラムでは、任期を終えた青年がJETプログラムでの思い出を胸に世界各地へ散らばり、異なる道を歩んでいました。一方、JETプログラム経験者（JET経験者）の大半が日本を離れてからも日本との絆を大切にし、JETAA（元JET参加者の会）などを通して日本を支援する活動に取り組んできましたが、お世話になった地域の方と自治体関係者との交流を続けようとしても途絶えてしまうことがありました。

その上、せっかく数多くのJET経験者を輩出している自治体でも、JET経験者の行方を把握し、さらにその有益なネットワークを地域活性化のために活用した事例はあまりありませんでした。

そこで、JET経験者の一層の活躍を支援し、JETプログラムを利用する自治体に新たなメリットを与えるため、有望なJET経験者を掘り起こし、自治体の活性化につながる企画を提案してもらう事業、「JETふるさとビジョンプロジェクト」が誕生しました。事業の主役となるJET経験者が、JETプログラム終了後、身に付けたスキルや築いた人脈を駆使し、JETプログラムでお世話になった取りまとめ団体（都道府県・政令指定都市）または任用団体の活性化に寄与するプロジェクトを提案し、当協会と自治体が協力して実施するものです。

2017年に西日本で実施し、翌年には、東日本で実施しました。西日本での活動については、自治体国際化フォーラム（2018年2月号）をご覧ください。

Visionの実現へ

準備内容や調整の進め方はプロジェクトによって異なり、JET経験者と当協会、自治体の3者の役割分担について戸惑いが多く、最初は暗中模索の状態でした。

しかし、調整した結果、すべての関係者が納得できるプロジェクト案を作成することができ、プロジェクトを

実施できました。

2018年の参加者

ここからは、参加者8人の企画概要と実現するまでの経緯を紹介します。

元山形県ALTであるエドリアン・オコンネル氏（アイルランド出身）は、酒田市地域に暮らす農家を中心に、地方の生活、仕事の様子を撮影し、田舎暮らしのシンプルな美しさを世界中に伝えるためのショートドキュメンタリーを制作しています。色々な方との面談、地域の撮影と学校訪問などコミュニティ交流を通じて、4日間で多くの題材を集めることができました。今後は、ドキュメンタリーの編集を行い、フィルムフェスティバルに出品し、山形県の魅力を世界に発信する予定です。

元新潟県妙高市ALTであるレア・ブラウンワルダー氏（スイス出身）は、妙高市伝統の和太鼓文化を保存・伝承するために里帰りしました。妙高高原の郷土芸能として受け継がれてきた須弥山（しゅみせん）太鼓の練習現場を訪問して楽譜記録・撮影・インタビューを行い、今後は、地元スイス・チューリッヒ市の和太鼓団体にその技術や魅力を伝えていく予定です。



妙高高原須弥山太鼓の練習に参加するレア氏

元福島県川俣町ALTであるミシェル・スペザカテナ氏（アメリカ出身）は、大好きな町の生徒の英語学習を支援し、読書の楽しさを伝えるため、川俣町の中学校2校に英語の本を寄贈するとともに、英語の本のコーナーを

設置しました。また、現地の役場や学校訪問で生徒たちとの交流に加え、本の寄付を記念する式典を行いました。

今後も、児童・生徒の英語学習や異文化理解に役立てるため、定期的に新しい本を両校に寄贈する予定です。

元栃木県 ALT であるファラー・カリーム氏（イギリス出身）は、小山市および周辺自治体の名産である結城紬をヨーロッパのデザイン業界における素材として普及させるため、製造業者、卸業者、技術支援施設や博物館などを訪問しました。プロジェクト終了後、小山市の結城紬をヨーロッパへ展開し、地域の結城紬製造業者の発展を支援していく予定です。



おやま広報大使委嘱式（右：小山市長、結城紬着）

元山梨県笛吹市 ALT であるリンジー・ニランダー氏（アメリカ出身・スウェーデン在住）は、スウェーデンからの潜在的な観光客に対し、山梨観光への関心を呼び起こすため、自身の撮影スキルを活かし、写真を通じて山梨県の温泉をスウェーデンで紹介しています。取材時に撮影した温泉など 10 カ所以上の写真を今後、無料で自治体に提供するとともに、地元のスウェーデン・ Lund 市で山梨県の温泉の魅力を紹介する一連の講義などを開催する予定です。



山梨県の温泉の PR 用写真

元福井県 ALT であるトレーシー・ボールド氏（アメリカ出身）は、母国アメリカ・ニュージャージー州で、

教育の視点から恐竜に関する教育プログラムを計画・導入し、将来的に恐竜の化石発掘が進んでいるグロスター郡と福井県の間に永続的な絆を築いていくことを目的に福井県へ里帰りして県立恐竜博物館および関連施設を視察しました。帰国してから担当している学校の生徒たちに経験と知識を共有し、事務室でも化石や本を展示しました。また、地元の化石公園を担当している大学の地球科学部長に報告し、今後、化石公園の職員とも福井県で学んだアイデアや発見について共有していくこととしています。

元静岡県 ALT であるジャスティン・クック氏（オーストラリア出身）は、藤枝市内の高等学校、地元のフットボールクラブ、静岡 Jリーグクラブのコーチや代表を訪問し、静岡フットボールブランドの認知度を高める方法や西シドニーと交流する機会を設ける方法について検討しました。静岡県サッカー協会や地域の高校などを訪問し、面談および練習の取材で現地の関係者と交流しました。現在、静岡県サッカー協会がウェスタン・シドニー・ワンダラーズ FC の U15 チームを静岡県で行われる「ゴールデン・サッカー・アカデミー大会」へ招待するなど、交流が生まれているため、引き続き交流の機会について検討する予定です。

元愛知県豊根村 ALT であるジェフリー・マックチャールス氏（カナダ出身）は、スポーツを通じた国際化を推進し、海外における理解を高めるため、カーリングを愛知県民に紹介しました。名古屋市での無料カーリング体験の実施や、愛知県カーリング協会との意見交換会、学校などでのカーリングの活用方法の例示および PR を行いました。今後は在住しているフロリダ州のクラブチームと日本カーリング協会の間に入って協力体制の充実を図ります。



名古屋市で親子にカーリングを紹介するジェフリー氏